

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科	環境園芸学科			
科目名称	博物館教育論					授業形態	講義		
科目コード	710105	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	山下 真一								ICT活 用
授業概要	博物館は教育機関として位置づけられています。元来、博物館は資料を展示し、それを鑑賞してもらうことで教育機会を提供してきました。しかし、近年は生涯学習意識の高まりや余暇の活用等で博物館が利用されるようになり、その役割は大きくなってきています。本講義では、博物館の定義と共に、その教育的役割について展示・講座・史跡めぐり・ボランティア等の具体的な事例を紹介しながら考えていきます。								
関連する科目	本科目は学芸員資格取得のための必須科目であることから、博物館概論、博物館資料論、博物館情報・メディア論、博物館展示論等と関連します。								
授業の進め方 と方法	本講義では、博物館学芸員として勤務する者が、画像等を使用しながら座学方式で講義を行います。博物館における教育のあり方について、都城市の登録博物館「都城島津邸」の事例を具体的に示しながら紹介し学んでいきます。なお、最終講義時にレポート形式の小テストを実施します。								
授業計画 【第1回】	第1回 博物館教育とは 博物館とは何かについてまず紹介します。そして、私たちの生活の中での博物館の活用のあり方を検討し、その上で博物館の教育の内容等について概観します。								
授業計画 【第2回】	第2回 博物館の持つ教育資源とは 博物館の教育は、博物館の内外で展開されます。そこで、博物館利用者の利用のあり方を考えながら、博物館の教育資源にはどのようなものがあり、それらが博物館利用者や博物館機能とどのように関わっているのかについて考えます。								
授業計画 【第3回】	第3回 博物館教育の歴史と意義 博物館利用者への効果的な博物館教育のあり方を考える上では、その歴史について振り返る必要があります。博物館教育のあり方の変遷・歴史を考える場合、それは時代の博物館に対する考え方、要請の変遷に呼応しています。今後の博物館のあるべき姿を展望する場合、博物館教育の歴史を概観することは大切なことです。そこで、ここでは博物館教育の歴史について紹介した上で、今日における意義について考えていきます。								
授業計画 【第4回】	第4回 博物館教育における展示の意義 博物館におけるもっとも代表的な役割が展示です。展示とは実物資料及び解説パネル等で、その内容を利用者に伝えることを目的としています。そこで、展示の方法及び教育的意義について、利用者と博物館双方の側から視点から考えます。								
授業計画 【第5回】	第5回 展示における補助教材の機能と役割 博物館は、教育活動の基本となる展示を通して、鑑賞者に様々な情報やメッセージを伝えます。展示は実物資料を並べるだけでは、その内容を正確に伝えることはできません。そのため、展示は資料を核として、言語や映像という二次資料を介在させた複合的なメディアとして構成されています。そこで、博物館利用者と展示をつなぐ役割を担う補助教材について具体的に紹介しながら、その教育的意義について考えます。								
授業計画 【第6回】	第6回 学校との連携と課題 博物館の学校教育を援助する役割は博物館法に定義されています。近年、学校教育における博物館活用促進の機運はさらに高まってきています。そこで、初等・中等教育を中心に、学習指導要領の変遷をたどりながら、学校との関係を概観していきます。近年の博物館は、学校からの来館を待たずだけでなく、積極的に学校との連携を図っていく必要があります。ここでは、そのあり方について具体的な事例を紹介しながら考え、その課題についても示していきます。								
授業計画 【第7回】	第7回 地域博物館としての教育的役割 地域に存在する博物館は、その地域への貢献、住民との連携が必要です。近年の博物館は、地域の多様性や歴史、文化の解明に貢献し、地域の人々の交流・学習の機会を提供していくことが求められています。そこで、ここでは、地域博物館の意味を考えた上で、都城島津邸で行っている史跡めぐりをはじめとする事例を示しながら、そのあり方について学んでいきます。								
授業計画 【第8回】	第8回 都城島津邸における実践①-収蔵史料展 ここから6回、都城島津邸における実践を紹介します。まず、都城島津邸における展示の種類とその展示方法及び内容について学んでいきます。ここでは、都城島津邸の事例をもとに具体的に解説し、展示ストーリーが決まり、展示資料をどのように決定していくのか、展示が博物館教育においてどのような役割があるのか、について考えます。								
授業計画 【第9回】	第9回 都城島津邸における実践②-企画展と講演会 都城島津邸では例年7月から9月まで企画展を実施しています。それは収蔵史料を展示物として、テーマを掘り下げて地域の歴史を紹介するものです。ここでは、実施した企画展の準備から実施に至る過程と、その内容について紹介し、企画展の意義と効果について考えていきます。企画展では、あわせて関連講演会を実施していますが、その事例を紹介し、実施する意味について考えます。								

授業計画 【第10回】	第10回 都城島津邸における実践③-特別展と講演会 都城島津邸では例年10月から11月まで特別展を実施しています。これはテーマを設定し、収蔵史料のみならず、他館等が所蔵する史料等も借用して行う展示です。 ここでは、実施した特別展の準備から実施に至る過程と、その内容について紹介し、特別展の意義と効果について考えていきます。また、あわせて実施している関連講演会について、その実例を紹介し、実施する意味について考えます。
授業計画 【第11回】	第11回 都城島津邸における実践④-生涯学習（歴史講座） 近年は、生涯学習意識の高まりや余暇の活用等で博物館が利用されるようになり、その役割は拡大しています。 教育を広く「人間形成」と捉えると、博物館の目的は、収集、保存に基礎を置いた、研究、教育機関であり、博物館は人間形成のための教育機関であるという考え方が主流になってきました。 ここでは、実施した歴史講座について具体的に紹介し、開催の目的、方法及び意義について考えます。
授業計画 【第12回】	第12回 都城島津邸における実践⑤-生涯学習（古文書講座） 近年は、生涯学習意識の高まりや余暇の活用等で博物館が利用されるようになり、その役割は拡大しています。 教育を広く「人間形成」と捉えると、博物館の目的は、収集、保存に基礎を置いた、研究、教育機関であり、博物館は人間形成のための教育機関であるという考え方が主流になってきました。 ここでは、都城島津邸で実施している古文書講座について具体的に紹介し、その方法及び意義について考えます。
授業計画 【第13回】	第13回 都城島津邸における実践⑥-ボランティアとの連携 博物館ではその運営・活動において、ボランティアいわば市民との連携を含んでいます。それは、イベントや展示案内等、多岐にわたることが特徴です。 都城島津邸でも博物館利用者が展示内容を即時に理解することは容易ではないことから、ボランティアによる案内ガイド実施しています。また、イベント時は、地域の民間サークルやNPO法人との連携しています。 ここでは、その内容と案内ガイドの育成方法について紹介し、なぜ、博物館は市民とともに活動していくのか、その意義について考えていきます。
授業計画 【第14回】	第14回 博物館活動の評価方法と課題への取り組み 博物館は、教育施設としての社会での存在意義を発信するため、住民参加による運営が求められています。そして、社会に対し教育施設としての説明責任を果たすために、その活動の評価が求められています。 評価には、展示評価、教材評価、プログラム評価、来館者の学習評価など多様な方法がありますが、ここでは博物館活動の評価と自己評価の実施方法について紹介し、そこで生じた課題への取り組み方法について考えます。
授業計画 【第15回】	第15回 まとめ 本講義全体を振り返った上で小テストを行います。
授業の到達目標	①博物館とは何かを理解した上で、その教育的役割及び学芸員の教育普及に関わる業務内容について理解する。 ②教育に向けた実践について紹介するので、その目的と意義について理解する。 ③学校教育との関係及びその課題について理解する。 ④生涯学習との関係及びその課題について理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	「講義の最後に次回回の講義内容について触れるので、参考図書で予習しておくこと」（30分程度） 「美術館や博物館を見学し、施設の状況や雰囲気を理解しておくこと」（各館1時間程度）
授業時間外学習【復習】	「配付したレジュメを読み直し、授業中のメモ等を整理しまとめる」（1時間程度）
課題に対する フィードバック	質問や疑問に対する回答、書籍や事例の紹介
評価方法・基準	試験またはレポート提出及び講義への取り組み態度での評価とする（100点）
テキスト	その都度、レジュメを配付します。
参考書	大高 幸・寺島洋子編『改訂新版 博物館教育論』（一般財団法人 放送大学教育会、2022年）
備考	